

## 平成25年12月10日（火） 活動報告

気温：朝4℃ 天気：雨 報告者：桑田直弥

### <活動内容>

- 11:00 出張サービスのパン屋と情報交換
- 12:30 地元の方より震災後の小学生の変化について聴き取り
- 14:00 サポートセンターに来所した住民との対応
- 15:00 D仮設団地へ10件訪問
- 15:30 E仮設団地へ8件訪問。談話室にて血圧測定と健康状態確認。
- 16:15 11日のたこやき企画の調理等の準備
- 17:00 サポートセンター内の掃除
- 18:00 サポートセンター向けの訪問記録作成
- 19:00 サポートセンターに来所した住民との対話
- 20:00 退勤

### ○出張サービスのパン屋と情報交換（11:00～）

…釜石市市内の別地区より、自動車でパン屋がサポートセンター前に場所を借りて出張販売を行っていた。五葉寮養護老人ホーム近くにあるアンデルセンというお店で、被災後にはまゆり商店街に仮設店舗を出しており、自動車で10分ほどかけて来訪。週2回、火曜・金曜に出張販売しているとの事。冷たい雨の降りしきる中だが、子どもから高齢者まで7～8名ほどの住民がパンを購入していた。菓子パンからサンドイッチまで多様な種類に加え、同じ商店街にある古川商店で出しているカレーライスや切干大根などのおかずやお惣菜も合わせて販売していた。

### (感想)

…商店街内の仮設店舗だけでは、周辺地区に来客の範囲が限られており、お得意様であった小学校や中学校等も被災により売上の数が少なくなってしまったとの事。また、遠く離れた仮設団地にとっても、自動車に乗れない高齢者や近くのコンビニのごはんに飽きてしまう方にとって貴重なサービスになっていると思う。



図1：センター前にて出張販売



図2：各種のパンや惣菜が揃う



図3：定番のパンも人気がある

### ○地元の方より震災後の小学生の変化について聴き取り（12：30～）

…地元に住む母親より、小学生や中学生の変化について。震災時は親の職場と子どもの学校とが離れたままで連絡もつかない状態。ラジオ等で地元の鶴住居小学校が無事である等のニュースは入るが、直接自分の子どもと会えたのは、震災から1週間が過ぎた時であった。震災時は十分な食料もなく、以前は少食だった小学生も震災後に急に過食になるようになった。震災後15kg増えて、体型も変わってしまった。今の担任の先生は震災後に赴任してきた先生なので「子どもは発達していくものだから」と言われ、震災前後の変化や震災時の苦労を分かってもらえない。学校の保健室などにも相談するが、単なる肥満として捉えられてしまい、家での栄養管理の行き届かなさを責められてしまう。子ども本人も食べ過ぎである事は自覚しつつも、食べる事で安心感を得ている様子。食べた後に胃のもたれや気分の悪さを訴えている。子どもの今後の心配。

(感想)

…震災によって大人や高齢者だけでなく、やはり子どもにも強い影響があるという事を実感した。震災により想像もできない程の極度に強いストレスが子どもに負荷としてかかり、「食べる」という行為によって生理的にも心理的にも満足を満たそうとする行為に依存・慢性化してしまった結果と考えられる。そこで、本人のストレスや不安に対して、震災後は安心して良い環境であり、周囲に理解できる親や仲間がいる事を繰り返し伝えていく事。また、不安を解消する行為を「食べる」行為とは別の行為（例えば、会話や遊びなど）に移行させていく事を助言した。

○仮設団地D、Eを訪問（15：00～）

…各仮設団地を訪問して、健康状態の確認と共に、明日開催されるセンターでのたこやきパーティーとお風呂無料体験利用の話題を出して、出欠等も確認していく。センターは仮設団地D内にあるため、他の仮設団地から参加する方の中で足が悪かったり、車が運転できない方には送迎等のサポートも行う。訪問した方の多くがたこやきパーティーの事を覚えていてくれた。また、合わせて11日以降にセンターで開催するキッズダンス等のお知らせを相応の年齢の子どものさんのいる親子世帯にも連絡・訪問して回った。

(感想)

…顔なじみの住民はほとんどがたこやきパーティーへの参加を意欲的に見せられ、ありがたい気持ちになった。中には、震災前に飲食店を経営されていた方もおり、たこやきの調理等の手伝いをほのめかしてくれる男性もいた。お風呂体験については、希望者は独居の高齢女性がほとんどであった。元デイサービスが使っていた風呂場だが、銭湯や温泉のようにものすごく広い浴場や特殊な浴場ではないため、写真を見せて説明すると「狭いけど、仮設のうちの風呂の方が落ち着く」「温泉みたいな風呂だったら入りたいわ」などの感想も聞こえた。また、訪問したE仮設団地の談話室では手作りのお好み焼きを振る舞って頂いた。「こちらでは、あまりお好み焼きは定番ではなく、作る頻度もほとんどない」という事で、シイタケや玉ねぎなどの野菜が豊富に入っており、食感や天ぷらのかき揚げに似たシャキシャキしたものであった。「本場の大阪とはどこが違うのか？」「こっちはマズイか？」など、大阪と釜石の味の違いなどについて話に花が咲いた。



図4：一日雨が続くと気温も低い



図5：傘を差しながらの訪問活動



図6：地元の手作りのお好み焼き

以上